



小学校高学年 ～中学生向け 年 組

2024年3月9日付・下野新聞26面

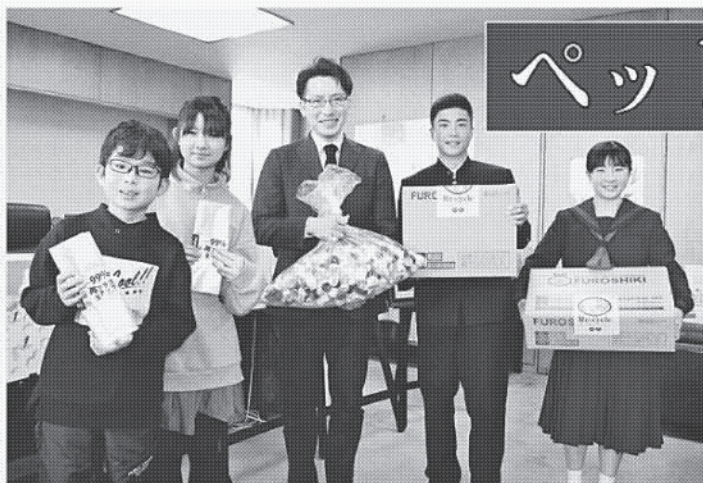
ペットボトルのふた

ごみ袋に再生 那須塩原市 実証事業

【那須塩原】地域内資源循環の推進を目指す市はこのほど、持続可能な開発目標（SDGs）学習に取り組み黒磯小、黒磯中と協力し、ペットボトルのふたをリサイクルしてごみ袋を製造する実証事業を行った。両校は1月に計約2万1千個のふたを回収し、2月にごみ袋が完成。このほど市役所でごみ袋の贈呈式が行われ、渡辺美知太郎市長から両校の児童生徒に贈呈された。

（生澤一浩）

黒磯小中・協力 2万個超を回収



渡辺市長（中央）から再生材ごみ袋を受け取った黒磯小と黒磯中の児童生徒

市長、式で完成品を贈呈

事業はペットボトルのふたを原料の一部に使用した再生品のごみ袋を地域内で使うことで、資源循環意識の向上を図る狙い。市は昨年12月に黒磯小、黒磯中にふたの回収への協力を依頼した。回収目標値は計約5500個だったが、1月末までに黒磯小では約1万3千個、黒磯中で8千個も集まった。市は廃棄物マネジメント事業「サテイスファクトリー」（東京都中央区）と連携し、神奈川県内の同社の提携工場にふた約1万2千個を送付した。同社が販売するごみ袋は99%が廃棄物由来の再生原料で作られ、ふたの割合は5%。今回は90%の袋が2千枚、45%の袋が5千枚できた。残りのふたは後日、新たなごみ袋の製造に活用する予定だという。

1日は黒磯小環境委員会委員長の6年樋口鈴さん

（12）、同副委員長の6年桜井龍汰君（12）、黒磯中学生会長長の3年荒生結太さん（15）、同書記の2年関根杏菜さん（14）が市役所を訪ね、渡辺市長はごみ袋を手渡し、「市はごみを減らし、可能な限り再資源化するサーキュラーエコノミーに取り組んでいる。皆さんの取り組みを頼もしく感じましたし、今後も協力してほしい」と呼びかけた。樋口さんは「保護者と一緒に頑張って集めて良かった」と笑顔で話し、荒生さんは「完成したごみ袋を自分の目で見られたことで、資源利用の意味を実感できた」と感謝していた。

に、ふた2万1千個を送付し、45%の袋が5千枚つくられた。

・（ ）那須塩原市は、ごみを減らし可能な限り再利用を進める「サーキュラーエコノミー」に取り組んでいる。

【4】あなたの学校で取り組んでいる活動（近くの小学校や中学校と協力しているものでもよい）で、新聞記事にして他の人に読んでもらいたいことを考え、その新聞記事の見出しを考えて書いてみましょう。

設 問

【1】これは那須塩原市の小・中学校の取り組みの記事ですが、那須塩原市の栃木県内の位置と、市内を流れる川の組み合わせとして正しいものを、下から記号で選びましょう。

- ア 北部にあり、思川が流れている。
- イ 南部にあり、鬼怒川が流れている。
- ウ 中央部にあり、渡良瀬川が流れている。
- エ 北部にあり、那珂川が流れている。

【2】「リサイクル」は、「リデュース」「リユース」とともに3Rの一つですが、次の文で正しいものを一つ記号で選びましょう。

- ア リデュースとは、「使える物はくり返し使う」ことである。
- イ リデュースとは、「物を大切に使い、ごみを減らす」ことである。
- ウ リデュースとは、「ごみを資源として再び利用する」ことである。
- エ リデュースとは、ア～ウのすべての取り組みをまとめたものである。

【3】次のそれぞれについて、記事の内容を正しく説明しているものには○、まちがっているものには×を（ ）に付けましょう。

- ・（ ）那須塩原市は、地域内資源循環の推進を目指している。
- ・（ ）那須塩原市が、黒磯小と黒磯中にペットボトルのふたの回収を依頼したところ、両校合わせて回収目標値より1万5千個以上多く集まった。
- ・（ ）那須塩原市が廃棄物マネジメント事業会社の提携工場